



漢書卷之九

三
地

東泉圖				
冊	九	三	一	
	卷	架	齋	類

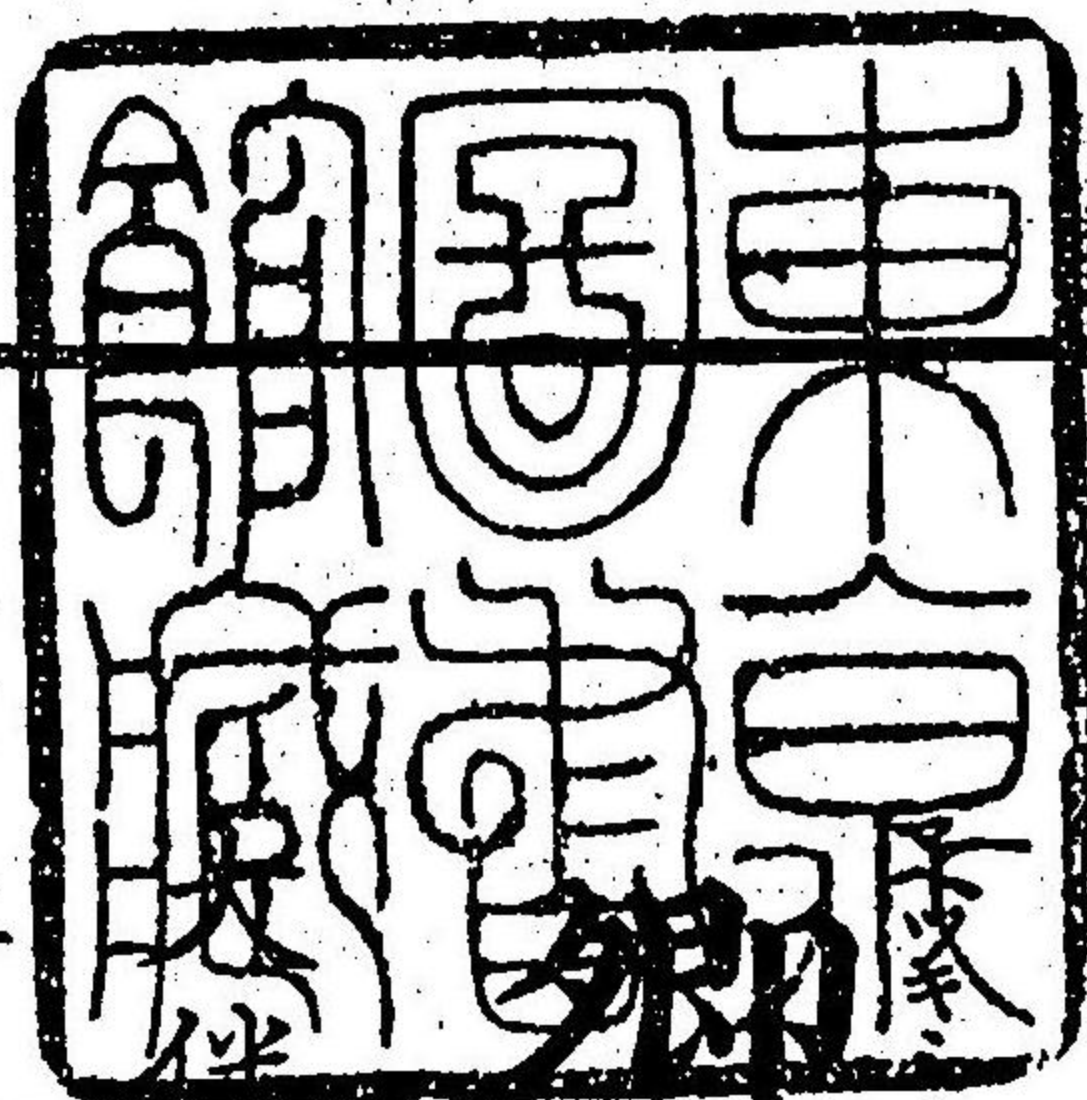
集古義

三

明治十九年九月十一日内務省交付

神龜五年戊辰太宰帥大伴

思戀故人歌三首



大伴 卿ハ旅人 卿なり。○故人ハ 卿妻大伴郎女なり。五

卷小ハ 太宰府小テ 太宰師大伴卿 報凶問 歌あり。八卷

丁 式部大輔石上堅魚朝臣 歌小 霍公鳥云々。その左

注小 右神龜五年戊辰 太宰帥大伴卿之妻 大伴郎女 遇

病長逝焉 于時勅使式部大輔石上朝臣堅魚遣太宰府

吊喪并贈物色 其事既畢 驛使及府諸卿大夫等共登記

夷城而望遊之日乃作此歌と見ゆ○歌字舊

本郷小誤類聚抄古寫本拾穂本等小従つ

愛人纏而師敷細之吾手枕乎。

纏人將有哉。

愛ハ。ウツクシキと訓べ。畧解ハ。ウハシキとよみ
語ナリ。と云。廿卷三十小。有都久之波々爾。書紀齊明天
皇大御歌。小宇都俱之。枳阿餓倭柯枳古弘孝德天皇卷
歌。小宇都久之伊母我字鏡小娃美女貌。宇豆久之乎美

奈ふどあり。愛賞。美。麗。を。ウツクシキといふハ。美。麗。れ。バ。人。の
つ。く。し。味。美。と。い。ふ。を。美。麗。き。本。義。と。意。得。と。る。ハ。非。在。り。
食。物。の。味。美。と。い。ふ。を。美。麗。き。本。義。と。意。得。と。る。ハ。非。在。り。
何。れ。可。愛。き。を。美。麗。き。本。義。と。意。得。と。る。ハ。非。在。り。
人。の。可。愛。き。を。美。麗。き。本。義。と。意。得。と。る。ハ。非。在。り。
本。義。と。意。得。と。る。ハ。非。在。り。○人纏而師敷細之吾手枕乎。
如。此。類。多。し。准。て。知。べ。し。○人纏而師敷細之吾手枕乎。
あ。人。の。枕。小。し。て。し。といふ意なり○纏人將有哉ハ。枕
ふ。さ。る。人。あ。ら。む。や。ハ。といふ意なり○歌意ハ。心。の。打
あ。い。の。な。ひ。て。愛。の。り。し。妻。の。枕。小。せ。し。と。今。ハ。其。妻。の
死。去。れ。バ。吾。手。枕。と。纏。て。相。宿。る。人。も。さ。ら。ゆ。あ。る。ま
し。き。が。甚。悲。し。と。歎。賜。へ。る。なり。畧解ハ。他
ハ。ト。い。ふ。心。な。り。と。云。る。ハ。非。在。り。○
は。あ。の。設。け。こ。し。ら。へ。と。る。意。ハ。さ。ら。ゆ。無。

右一首。別去而
經數旬作歌。

別去ハ死

去ナリ

應還時者成來京師爾而誰手

本乎可吾將枕

應還ハ此卿天平二年十二月京へ還里賜ひしなり。あ
は次小云○時者成來成字ハ。類聚抄小元ハ。來の誤寫

な里。成來草書甚混易し。トキハキニケリと訓べし。本
氏説小來字ハ去の誤ひてナリ。又なりと云。○吾將枕
ハ五卷小和我摩久良可武とあり。こは枕を頭小著と
いふ言ひて可武ハ可伎久氣の活轉ひて活動ぬ言と
活用のみ辭なり。護く羅くおどの久小同ト。枕くハ枕
纏の約言そと誰も皆意得てト。○歌意ハ京小還るべ
き時ハ來小けり。然るを京小還行て誰の袂を枕ふ
て吾ハ相宿せま。妻小死別さればさら小相宿を
入るあくていと悲し
からましとのよしなり

在京師荒有家爾ミヤコナルアレタルイヘニヒトリ子バタビニマサリ一宿者益旅

而可辛苦テ。クルシカルベシ

荒有家アレタルイヘハ頃年太宰府モトリ子バふおをせしなれば京師家ハ荒
あるなり○一宿者モトリ子バハ妻元ウメノ小獨宿バとなり○可辛苦クルシカルベシ
ハ京小還向間カチ預て辛苦クルシあるべしとおもわしや里賜
ふなり○歌意かくれなし下小還カチ入故郷家即作歌人ヒト
毛奈吉空家者草枕旅爾益而辛苦有家里と
あるを併見ヒトる小切チ小哀アハレ小悲カミくなむ有ける

右二首臨近向
京之時作歌

此下小天平二年庚午冬十二月太宰帥大伴卿向京上
道之時作歌と見え此卷末ツケシルセ小附記ツケシルセる小天平二年十月
一日任大納言續紀言ハ漏脱ハせりハとある小依て思ふ小
十月の末より十二月の間小作れし歌なり

神龜六年己巳左大臣長屋

王賜死之後倉橋部女王作

歌一首。

神龜二字此處ハ削ベシ。上ハ神龜五年とあれバなり
○長屋王の傳ハ一巻下九下十小委云里賜死一ことは
續紀小天平元年二月辛未云々等告密稱左大臣正二
位長屋王私學左道欲傾國家其夜云々圍長屋王宅癸
酉令長屋王自盡其室二品吉備内親王男從四位下膳
夫王无位桑田王葛木王釣取王等同亦自縊甲戌遣使
葬長屋王吉備内親王屍於生馬山云々長屋王天武天
皇之孫高市親王之子と見ゆ○倉橋部女王ハ傳知

ハ、卷小、掠橋部、女王と

あるハ、同人なるべし

大皇之命恐大荒城乃時爾波

不有跡雲隱座

大皇之 大字、舊本太と作るハ誤なり、今ハ類聚抄拾穂
本等ゆ從つ畧解小大を天小改めてス。オホメロキ
ハとよみしハいみハオホキミノと訓べし。○大荒城
ハ大は例の美稱荒城と云意ハ本居氏云荒ハ鏗璞
どの阿羅なり其は新小死さるまゝふて未何とも爲

あへぬむとの意ふて今せふも其と阿羅某と云こと
多し阿羅亡者阿羅齋阿羅火などの如し城ハ墓の紀
ふ同トされバ新ふ死もるまふて未葬里あへざる
ほとふ且姑く収置處を阿羅紀と云て天皇などのハ
其宮を阿羅紀能宮と申せるな里と云里○時爾波不
有跡は大荒城仕奉るべき時ならねども意ふて身
命の限ふて薨賜へるふ非ざりしと云次下ふ丈部龍
麻呂の自經死もるを時爾不在之天とあるふ同ト○
雲隱座ハ薨坐るといふ○歌意ハ大皇の御命のかり
こくゆりくいなみごのさき故ふ御身命の限ふあら

びして自盡賜へるハい
とも悲しき事そとなり

悲傷膳部王歌一首

膳部王ハ長屋王の長子なり上長屋王の注ふ續紀と
引るが如し續紀小神龜元年二月丙申無位膳夫王授
從四位下と
見えあり

世間者空物跡將有登會此照

月者滿闕爲家流。

アラムトツ 將有登曾ハ。あらむ道理としてそといふほとこの意なり

○歌意かくれゝるところなく。天照月の滿則必缺る

理を思ひて。自悲傷の堪難きを忍へるなり。七卷小隱

口乃泊瀬之山丹照月者盈具爲鳥人之常无十九悲世

間无常歌小。天原振左氣見婆照

月毛盈具之家里云々とあり

右一首作者未詳。

天平元年己巳。攝津國班田

史生丈部龍麻呂。自經死之

時判官大伴宿禰三中作歌

一首并短歌

班田史生ハ。アガチダノフミヒトと訓べし。班田ハ。孝
德天皇紀小。班田收授之法。持統天皇紀小ハ。班田大夫

等ともあり續紀小天平元年十一月癸巳任京及畿内
班田使云々阿波國山背國陸田者不問高下皆悉還公
即給當土百姓但在山背國三位已上陸田者具錄町段
附使上奏以外盡収開荒爲熟兩國並聽と見ゆ班田の
ことハ田令義解小凡田六年一班謂此據未給口分人
可更收授也若田有崩神田寺田不在此限謂此即不稅
埋侵食亦依改班例也更復加授也若以身死應退田者每至班年即從收授
見えあり史生ハ官中の末々の事までと書記職な
り和名抄小職負令云史生俗二音今案官局以上及諸
國一分皆謂之史生一分者蓋俸斷之分法長官五分次

官四分判官三分主典二分史生一分之義也とあり後
小史生を賞の如く唱るハ主典フミト小まぎるゝ故なるべ
しされど古ハ主典史生共小フミトと唱へしなる
べし○文部龍麻呂は傳知文部ハ和名抄小安房國
長狹郡文部波世豆加倍ハセツカバと見ゆ此地名より出さる氏
ふるべし廿卷防人等の姓氏小安房上総小文部氏多
し龍麻呂も東國より出て官仕せし人ならむ○經死
經字類聚抄小ハ經と作里經の誤
の楊雄方言小經經也と見えしハ垂仁天皇紀小自
經雄畧天皇紀小經死とあるをともしワナキとよ
り皇極天皇紀小ハワダキとよ然里知とナは既く云

如く親通例チカツ小て同言なり。さてワナハワナ羅ワナなり。キハ
 枕マクラきカッラ。獲ウケきのカッラのきカッラと同言小て。體物を活轉キョウテンを辭ジなり。キハ
ワナ羅ワナ絞シヨウの約ヤクといふ説ハワナ羅ワナの字ジ。○判官ハ班田司の
 鏡キョウ小。縊シヨウ絞シヨウ也。經キョウ也。欠ケツ比ヒ留リウとも見ゆ。○判官ハ班田司の
 判官小て。長官次官の下知を得て。官中の大小の事を。
 正判セイハンる職シヨクなり。マツリゴトヒトと訓べし。和名抄小。本
 朝職負令。二方品負等所載云々。勘解由曰判官云々。皆
ツ豆マメ利リ古コとあり。後ノチ世セ小。ふべて諸官の判官をジヨウと
止比ヒ止シとあり。呼ヨハ八省の丞シヨウの字音ジよりリつれるルあ
氏いへり。○大伴宿禰三中は類聚抄小。三中或作御中。
 攝津國班田判官云々。續紀小。天平九年正月辛丑遣新
 羅使副使從六位下大伴宿禰三中。染病不得入京。三月

壬寅副使正六位上大伴宿禰三中等四十人拜朝。十二
 年正月庚子外從五位下。十五年六月丁酉爲兵部少輔。
 十六年九月甲戌爲山陽道巡察使。十七年六月辛卯爲
 少貳。十八年四月壬辰爲長門守。同月癸卯從五位下。十
 九年三月乙酉爲刑部大判事。と見ゆ。此
 時ハ班田司の判官ありなるべし

アマクモノムカハスクニノマスラトイハエシヒト
 天雲之。向伏國。武士登所云人

ハスメロキノカミノミカドニトノハニタチ
 者。皇祖神之御門爾。外重爾。立

候内重爾仕奉玉葛彌遠長祖
名文繼往物與母父爾妻爾子
等爾語而立西日從帶乳根乃
母命者齋忌戶乎前坐置而一
手者木綿取持一手者和細布

奉平間幸座與天地乃神祇乞
禱何在歲月日香茵花香君之
牛留鳥名津匝來與立居而待
監人者王之命恐押光難波國
爾荒玉之年經左右二白栲衣

不^{ホサ}干^ズ。朝^{アサ}夕^{ヨヒニ}在^{アリ}。鶴^{ツル}公^{キミ}者^ハ。何^{イカ}方^{サマ}爾^ニ念^{オモヒ}

座^{マセ}可^カ。鬱^{ウツ}蟬^{セシ}乃^ノ。惜^{ラシキ}此^{コノ}世^ヨ乎^ヲ。露^{ツユ}霜^{シモノ}置^{オキ}

而^テ往^{イニ}監^{ケム}時^{トキ}爾^ナ不^ラ在^ズ之^シ天^テ。

天雲之向伏國とハ、國土の境界ハ、遠小望れば、雲の地
小向ひ伏て見ゆるをいふことハ、天下國土の限とい
ふ小て、天地の間小、二なき、武士といふ意小、つゞきこ
り、契沖が、遠國の心なる、大郡ハ、安房、國長、狹、郡小ある
郷名あれば、此、龍麻呂、そこより出て、みやづらへ

多るゆゑ小、かくハツバけりなるべし、といへるハ、甚
非し、次小引祝詞、五、卷十三、卷歌をも併見て、國土の限
をいふことあるハ、
疑あきを、知べし、
方國者、天能壁立極、國能退立限、青雲能靄極、白雲能墜
坐向伏限、云々、五、卷七、令反、感情歌小、許能提羅、周、日、月
能斯多波、阿麻久毛、能牟迦夫、周伎波美多爾具久能佐
和多流伎波美十三、
伏國乃、天雲下有人者、などあり、○武士登ハ、マスラヲ
トと訓べし、
と、同義なり、天地の限、双なき、武健き士と、所云、
なり、今、世、ふて、い、む、日本一の剛者、とい、む、の、如し、

伊勢物語云。天下の色このみ。源のいふるといふ人々
あるも。天下一の好色者といふ意あるも。准知べし。
この詞小て思へば。此龍麻呂當世剛勇の名と得し
人ふそ有けむ。皇祖ハ。スメロキノと訓べし。既く一
卷中小具説里。神之御門ハ。皇朝廷と云。外重爾は
ト。パ。ヘ。ニ。と訓べし。外重ハ。古今集。壬生。忠岑。長歌小て
るいあり。近き衛の身ありしと。誰あり秋の來る方小
欺き出で御垣より。外重守身の御垣守とさくくくも
おるふえぞとある是なり。猶次小いふ。立候タテマモロヒ候。字。舊
誤。今ハ拾。ハ。令せ賜ふことあらば。仕奉むと立て伺候ウカヒ
總本ハ從。ハ。令せ賜ふことあらば。仕奉むと立て伺候
ふよしなり。内重爾ハ。禁裏小。外重中重内重ありて。

これを三門と云里。官衛令義解小。允理門至夜燃火内。謂
及中外之三门。並大器貯水監察諸出入者とあり。天皇
皆衛士燃火也。の大坐まは外の御門と。宮城門といふ。左右衛門守れ
り。此と外重と云。其内の諸門と。中重と云。神祇式小。允
給五位位記於中重給之。左兵衛云々。若禰宜
府式小允云々。行夜者中隔二人。左右兵衛まもれり。其
内の御門を閤門と云て。綴。明。天皇。紀。小。それより内小
ハ。御門なし。これ内重なり。九卷詠浦島子歌小。海若神
宮乃内隔之細有殿爾とあり。仕奉ハ。令せ賜ふこ
とを。執行い仕奉といふなり。玉葛ハ。遠長の枕詞タマカサ
り。祖名毛ハ。先祖の名をとるといふなり。祖とは。父母

より、遠祖とのけつていふ稱なり。○繼往物與は朝廷小
仕奉里。且班田使小任られなど。身を立功と成て、先祖
の家名をも、彌遠長く、末世まで小斷ぎ云繼むものそ。
と語らひいふなり。○母父爾は、オモチ。ニと訓べ
し。廿卷 卅五 小意毛知々我多米。又 廿九 阿母志々とも
見ゆ。阿母志々ハ。○妻爾子等爾ハ。十三 小母父毛
妻毛子等毛高々二來跡待異六人之悲沙。廿卷 卅七 小
若草之都麻母古騰母毛乎知已知爾左波爾可久美爲
云々。多豆佐波里和可禮加豆爾等比伎等騰米之多比
之毛能乎。あどよめり。○帶乳根乃ハ。母の枕詞小て。集

中こと小多。一、無乳根足常あど書さるハ、借字小して。
多良知ハ。知ハ之小通ひて。知と之と、通用さる例。足の
意小て、贅辭なり。この一こけど、足日子。足比賣などの足
の如し。根ハ。例の尊稱なり。古事記小、岳根王。まゝ建忍
山岳根。島岳根など云人、名も見えり。この無も足小
て。即、足根と云小同ド意の稱なり。母ハ。こと小親く尊
きものなる所以小。足根之母とい稱なりけり。冠辭考
を育つ。日足根の母と云を。日を畧さいふなり。と云る
ハ。いみじきひびことなり。そもく日足と云ハ。日の言
おもつけられバ。その重き言を畧きてハ。何を足さよと
の聞えむ。九てさバ。言を省きて云ること。又此と。
なあり古。ふさる畧言あるべきことあり。

多羅知斯と云。其ハ五卷小云べし。又新撰萬葉小
足千種之祖
 都良芝那如此量思丹迷世丹駐低とあるハ。ヤハ後な
 り。又父と云らちと。母と云らちめと分ちいふあどハ。
 さらぬ古あらぬ。あれ。○母命ハ。母を尊て云るなり。父
 命。夫命。兄命。弟命。妹命など云あること。集中小多し。
 さてかゝるところ小。母をいひて。父をいさざるハ。古
 人の實なり。父と云ふとみて。母をいやしむハ。漢國聖
 ハ。母父とも小。同トつらぬとふとめるお中。小。母ハこ
 と小。親キタきよのあれば。母をことぬいへるハ。實のこ
 ころ。○和細布奉ハ。和細布ハ。諸祝詞小。御服波。明多閉
 照多閉。和ニキタ多閉荒多閉爾。仕奉成と見ゆ奉ハ。神祇小奉
 進マサキムと云。○平字。舊本乎。元曆本小乎と作るハ。皆誤。今改

つ○間幸座與ハ。間ハ借字。真幸く間せよ。と神祇小禱るあ
 り。上小。吾命之真幸有者。廿卷廿三為防人情陳思作歌
 小。平久和禮波伊波々牟。好去而早還來等。麻蘇泥毛知
 奈美太乎能其比。などあり。○神祇乞禱ハ。十三七小。天
 地乎歎乞禱幸有者。又反見。又十八天地之神祇乎曾吾
 祈。ま。天地之神乎曾吾乞。などあり。○何在ハ。五卷一
 丁。小。伊可爾安良武日能等伎爾可母とあり。○歲月日
 香ハ。トシツキヒニカと訓べし。トシノツキヒカ。何の
 歳ふ。何の月日ふ。といふ意なり。○茵花ハ。香の枕
 詞なり。茵は品物解小具。云。○香君之は。ニホヘルキ。

かと訓べし。本居氏の。か。ハ。シ。カ。ヨ。ガ。ト。ヨ。マ。レ。シ。ク。ハ。十。八。三。十。二。丁。小。香。具。波。之。君。乎。と。あ。る。小。香。具。波。と。あ。る。香。具。播。之。と。の。書。き。と。香。の。一。字。の。こ。の。ま。む。こ。と。い。か。お。十三。小。茵。花。香。未。通。女。と。あ。る。を。人。麻。呂。集。歌。小。ハ。都。追。慈。花。爾。太。遙。越。賣。と。見。え。り。思。合。べし。一。卷。十四。小。紫。草。能。爾。保。敝。類。妹。乎。十一。十四。小。山。振。之。爾。保。敝。流。妹。之。字。鏡。小。輝。媛。美。麗。之。貌。爾。保。不。など。見。ゆ。○牛。留。鳥。は。荒。木。田。氏。牛。留。は。尔。富。の。誤。小。て。ニ。ホ。ド。リ。ノ。な。る。べし。と。云。里。十五。小。柔。保。等。里。能。奈。豆。左。比。由。氣。婆。と。あ。れ。バ。信。小。是。説。ハ。謂。れ。り。又。異。本。小。牛。と。牽。と。作。る。小。依。バ。ヒ。ク。ア。ミ。ノ。な。る。べし。留。と。活。字。本。小。

死。田。二。字。小。作。る。ハ。留。の。異。體。番。と。○名。津。匝。ハ。上。小。出。作。る。其。を。誤。て。二。字。と。せ。る。な。り。○名。津。匝。ハ。上。小。出。つ。○待。監。人。者。ハ。母。父。妻。子。の。い。つ。の。還。來。坐。む。と。待。け。む。其。人。ハ。と。い。ふ。な。り。○押。光。ハ。難。波。の。枕。詞。な。り。古。事。記。書。紀。小。も。見。え。集。中。小。ハ。殊。小。多。し。此。ハ。ま。づ。難。波。ハ。神。武。天。皇。紀。小。方。到。難。波。之。埼。會。有。奔。潮。太。急。因。以。名。爲。浪。速。國。亦。曰。浪。華。今。謂。難。波。訛。と。見。え。さ。れ。バ。本。ハ。浪。速。じ。も。浪。華。と。も。呼。し。由。傳。へ。る。な。り。今。ハ。其。中。小。浪。華。と。あ。る。方。小。就。て。其。本。義。小。立。の。へ。り。て。此。枕。詞。を。お。ける。な。り。華。小。ハ。光。と。い。ふ。の。古。の。常。な。れ。バ。押。並。て。光。浪。の。華。と。い。ふ。意。小。つ。け。り。さ。て。押。ハ。十。卷。小。忍。並。

而高山部乎白妙丹令艷有者櫻花鴨とあるごとく押
並る意光ハ同卷同小能登河之水底并爾光及爾三笠
之山者咲來鴨三卷五十小足檜木乃山左倍光咲花乃
云々六卷四十小巖者山下耀錦成花咲乎呼理などよ
めりさて押光と連言るハ集中月歌小七卷小押而照
有ハ八卷小月押照有ふどありさて六卷二十超草香山
時神社忌寸老麻呂作歌小直超乃此徑爾師互押照哉
難波乃海跡名附家良思裳とあるも本義を思ひて押
照や浪華の海と名附けらるといふ意のとも思へど
然小ハ非む其頃ハ既く此枕詞地名の如くなりてや

めて難波宮を、押照宮ともいひしとおもたるれば、
小サクラ櫻花イマ伊麻サカ佐可カ里奈ナ里難ナ波乃海ウミ於オ
之シ豆マ流リ宮ミヤ爾ニ伎キ許コ之シ賣ウ須ス奈ナ倍ヘとあり、この老麻呂の歌
の意ハ、難波の言へハ關らば、この難波の海と、古歌小
押照とよめる小、今此直超の道より見やれば、あの難
波の海上の、押照て清白小見ゆるよ、昔人も此草香の
直超より見やりて、難波小、押照てふ名を負せけら
なと當時の景色を真ドてよめるなり、さればこの老
麻呂歌ハ、此枕詞の發見の意小、係て見むハ甚惡一〇
難波國ハ、泊瀨國、吉野國など云る類なり、既く云里〇
荒玉乃ハ、年の枕詞なり、集中小、此詞甚多くして、年と

も月とも來經とも續きしり古事記景行天皇條歌小
 多迦比迦流云々阿良多麻能登斯賀岐布禮波阿良多
 麻能都紀婆岐閉由久と見えしり此枕詞種々の説あ
 れど皆あしらび其中本居氏古事記傳小阿良多麻能
な里万葉廿八年月波安多良爾安比美禮騰と
あるハ安多良とハ年月日時の移りもて行を云言小
て年月ハ移往て阿環る物ふれハ又環里來る毎小逢見
るよハ切なりさて阿良と云下を切知て多と云ふハ
多良を切知て阿良と云下を切知て多と云ふハ
は間ふて程と云小同トと云ふもいさハの多ハ
さるハまづ間と云ふ言の趣と物との空隙と云言なり
といふ小全同意ふして物と物との空隙と云言なり
間字と字書小隙也とも暇也とも又空隙也とも云
其意なり又時日也とも注しなれど御國言小麻と云
るハ空隙の意ならぬハついな大神景井阿良多麻能
言の趣をよく考へて知べし

ハ阿良多々麻能てふ言ふて阿良多ハ新る意多麻能
 ハ田物の田實之の意小て稻實をいふならむ今も
 稻實の中小赤きのが有を阿加太麻と云ハさまく古言
 の残れる小やとそおもえさして年と云名ハ田寄
 小て其ハ神の御靈もて稻種を水小浸し苗代小播田
 小なりて天皇小寄奉賜ふ故小田より寄てふ意小て
 穀を登志といふより年を登志といふと本居氏の云
 れ小ふよりて思へバ阿良多麻能年といふハ新穀之
 田寄といふつゞきなるべくおるゆさて月とかゝる
 ハ新穀之調といふ意のともおもへどさ小ハあらて

月ハ年中のものなればつゞけざるなるべし。來經
 と續くるも月とつゞけし小同くと云里○白栲ハ衣
 の枕詞なり。既く出つ○夜不干ハ下五十四小シロクハノ白細之衣
 袖不干テホサズとある小依て思ふ小こゝも衣の下小袖の手
 この字脱するなるべし。又衣ハ袖字の由の旁の減し
 もの小もあるべし。故今ハコロモテホサズと訓つ。旅
 館小年月を経て。雨露小沾し衣服をも。焮乾人アツリホスご小も
 なくして。朝暮小勤勞せる由なる。九卷アブリホスヒト十一 小焮于人
 母在八方沾衣乎。家者夜良奈羈印イカサマニオモヒマセとよ免里○何方爾
 念座可ハ一巻小何方所念計米可。二巻小何方爾念居

可此下小何方爾念鷄目鴨イカサマニオモヒケメカモふどありて。集中小多き詞
 なり○露霜ハ置の枕詞なり。既く出つ○置而往監ハ
 惜此世間ウツシヨと棄措て。死去けむことといふなり○時不
 在之天ハ上小大荒城時爾波不有跡オホアラキニハアラキドとあるところ小
 云る如く身命の限小あらざきて。とい
 ふなり○歌意かくれざるところなり

反歌

昨日キノ社公者在然不思爾濱松コソ。キミハ。アリシカ。オモハヌ。ニハママツ

之上於雲棚引。

不思爾ハ思ひのけもあき小の意あり。五卷悲男子歌
小大船乃於毛比多能无爾於毛波奴爾横風乃云々十
卷十七小霜雪毛未過者不思爾春日里爾梅花見都か
どあり○於雲棚引ハ火葬の烟をいへ至○歌意ハ君
の存世ヨニアリて公事を勤イシみハ昨日の事小こそ有けれさ
れば思ひのけもなき小今日ハその君を火葬して濱
松の上小雲烟となりてさあびきこるよ。
さてもこのみあさき人の身そとなり

何時然跡待牟妹爾玉梓乃事

太爾不告往公鴨。

事太爾不告ハ事は借言コトダニツグズあり傳言ツテコトをさへせびしての
意なり○歌意ハ歸里來む日ハ今日の明日のと家妻
ハ待つゝあるらむ小その妻小使して傳言をさへせ
びして自經死君哉さても情無のこさやとなり

天平二年庚午冬十二月太

宰帥大伴卿向京上道之時

作歌五首

天平二字此處ハ削べし。上小天平元年とあれはなり

○向京ハ大納言小任れて京師小向上賜ふ時お上

小具

云々

吾妹子之見師鞆浦之天木香

樹者常世有跡見之人曾奈吉。

鞆浦ハ備後國小ありて名高し七卷十六小海人小船

帆龜張流登見左右荷鞆之浦回三浪立有所見好去而

亦還見六大夫乃手二卷持在鞆之浦回乎とよ免ると

同ト處なり○天木香樹ハ諸國小ある木なり讚岐國

ふては今毛呂と云々柏木と云木小似て根蔓ものな

り其實多く群るなるものなり故實群といふ義ふて

品物解ふ云ると披見べし本居氏玉勝さてをやく契

沖も云く如くこの鞆浦の室樹ハ大木小て其昔甚名
高くそありつらむ十五丁七小波奈禮蘇爾多氏流牟漏
能木宇多我多毛比左之伎時乎須疑爾家流香母之麻
思久母比等利安里宇流毛能爾安禮也之麻能牟漏能
水波奈禮且安流良武とよめるも此浦なり現存六帖
小鞆の浦
や浪路遙小漕船のそがひふなりぬ磯の室木 ○常世有跡ハ常世小て有ど
もといふなり常世ハ常住不變と云○見之人曾奈吉
ハうせられし帥妻大伴郎女とさせり○歌意ハ筑紫
小率て下里カハラスと郎女の賞み見しその鞆浦の室の
木ハ當時小不變てあれどもその見し郎女ハ失せて

なきぶ悲し

き事となり

トモノウラノイソノムロノキミムゴトニアヒ
鞆浦之磯之室木將見每相見
シイモハワスラエメヤモ
之妹者將所忘八方

歌意ハ今より將來鞆浦の磯小こてる室樹を見む度
毎小相共小此樹を賞み見し妹のことのおもひ出ら
れていので得忘堪むやハ
さても悲しき事そとなり

磯上丹根蔓室木見之人乎何

在登問者語將告可。

歌意ハ相共み見し妹のりへのことをいふなりと室
の木小問バも一語告ることありむかとなり。過去
一真途の事とも室の木小問見むと
せめて思へるのいとあわれなり

右三首過鞞
浦日作歌。

與妹來之敏馬能埒乎還左爾。

獨之見者淨具末之毛。

還左爾は還時みなり左は之太の約れるみて時の古
言なり往左來左の左み同ト上み具云室〇獨之見者
之字舊本小而作るハ誤なり。四の誤
ふ従つ。ヒトリシ。レ。バと訓べし。之ハその一をちな
るをいふ助辭なり。〇淨具末之毛ハ淨催しなり。具
牟とは草木小芽具牟角具牟あといふは萌を意ふて

こゝも涙の落むと催し崩し意なり。仁徳天皇紀歌小。
椰菴辭呂能菟々紀能瀾椰珥茂能菴烏輪和餓齊烏瀾
例麼那瀾多愚摩辭茂後撰集小古の野中の清水見る
あらみ刺具牟物ハ涙なりけりなどあり。毛ハ歎辭お
り○歌意かくれ
こゝるところなり

去左爾波ニ吾見之此埒乎獨

過者情悲喪

情悲喪コノカナシモ喪字舊本小哀と作るハわろし今ハ類聚抄拾
徳本又異本等小從つ又古寫一本ハは裳と作
よるし喪ハ歎辭なり舊本一云見毛左可受伎濃と
注せり見放る事もせび小來ぬといふなり見放ると
いふハ一巻小數毛見放武八萬雄とある下小解イヒ如
く放ハ振放見の放小同ぐくて望望放つ意の詞なり
かくてこゝハ此埒を見れば二人見し妹の事のおも
ひ出られて彌悲しければ望望もあへど悲小伏沈み
て過來ぬと云意なり此詞古來意得誤れることなり
契沖あど目の目もあさむ見て
過ぐる意と云るハ大く反れり○歌意ハ筑紫小往時
ふハ郎女と二人見し此敏馬の埒を還る時小多イ

人見れば、むろゝの事の思ひ出

られて、さても悲しやとなり

右二首。過敏

馬崎日作歌。

還入故郷家即作歌三首

人毛奈吉。空家者。草枕旅爾益

而。辛苦有家理。

歌意。かくれゝるところなく。在京師荒有家爾一宿者。益旅而可辛苦。と預て案いゝ如く。まこと小辛苦かり。けりとのゝまへるの。

甚あえれなりけり

與妹爲而二作之。吾山齋者。木

高繁成家留鴨。

與妹爲而ハ妹と二人しての意なり。爲而ハ一人爲而。二人爲而。旅爾爲而。家爾爲而。なども云る。爲而と同意。

ふて、他をまじへば、其事をうけたりて、物をさることふ
いふ詞なり。さればこゝも、妹と二人うけたりて作
し意なき。○吾山齋者は、アガシマハと訓べし。廿卷小
屬目山齋作歌乎之能須牟伎美我許乃之麻云々とあ
り。之麻とは、本居氏俗小いをゆる。作庭築山の事と古
小ハ島と云々。二卷小御立爲之島乎見時云々。御立爲
之島之荒磯乎云々。島御橋爾云々。島乃御門爾云々。六
卷小鶯之鳴吾島曾云々。十九小雪島巖爾殖有奈泥之
故波ふどある島これなり。又伊勢物語小島このみ給
ふ君なりとあるも同くことふて、造庭を好みめで給

ふと云々といへるが如し。山齋と書るハ、その作庭み、
家の形など造れる所由な
るべし。○歌意ハ、妹と二人うけたりて作し、吾家の島
ハ、此、ちとさても木高く、繁くなまふける哉。木高くな
りなば、彌見處もあるべければ、その時、二人相共み愛
賞むと思ひし。ふるむひて、いと悲しさの堪むさく
おもをるゝよとなり。土左日記小京の家小歸里著ある
ることと書るところふさて池めいて、くろまり水つ
ける處あり。邊ふ松もありき。いつとせむとせのりち
ふ。千年や過ふけむ。片枝はなくありふけり。今生ある
そまどれる。大のこ皆荒みあるべ。あをれとそ人々い

ふ思ひ出ぬ事あくなもひ戀しきのりちふ此家ふて
 生れし女兒のもろともふ歸らねべいのづかかなし
 き舟人も皆子抱てのゝりるかゝるりちふ猶かなし
 びふあへばしてひそのふ心あれる人のいへ里ける
 歌うまれしもかへらぬものをこの屋外ふ兒松のあ
 るを見るのがかなしさとそいへるあはあのだやわら
 む又なむ見し人を松の千歳ふ見まゝのべ遠く悲し
 き別せまゝやとあり妻ふわのれしと子を失へると
 任國より故郷家ふ還入るる
 悲情ともふあをれふなむ

吾妹子之殖之梅樹每見情咽
 都追涕之流

殖字拾穂本ふは植と作り○情咽都追ハ四卷廿三小
 言將問縁乃無者情耳咽乍有爾又ハ三丁白妙乃袖可別
 日乎近見心爾咽飲哭耳四所泣廿卷三十小麻蘇塗毛
 知奈美太乎能其比牟世比都々言語須禮婆などあり
 ○歌意ハ妻ふありせば二人見まゝ物をと思へば見
 毎小彌悲く情咽つゝ一とをちふ涕流るとなり此下

家持卿悲傷亡妾歌小秋去者見乍思跡妹之殖之屋前
ノナデシヨサキケルカモ
之石竹開家流香聞まゝ吾屋前爾花曾咲有其乎見杼
コロモヨバズハシキヤシイモガアリセバカモナスアリナヒサタアリテ
情毛不行愛八師妹之有世婆水鴨成二人雙居手折而
モミセマシモノヲ
毛令見麻思物乎云々など見えてとふふいとあをれ
な
り

天平三年辛未秋七月大納

言大伴卿薨之時謠六首

天平二字削べし上小天平元年とあればなり○三字
古寫一本小二と作るは誤なり○大伴卿薨ハ續紀小

天平三年秋七月辛未大納言從二位大伴宿禰

旅人薨と見えり既く此卷上丁百一小妾云々

愛八師榮之君乃伊座勢波昨

日毛今日毛吾乎召麻之乎

榮之君ハ咲榮ハ愛き君といふなり七卷丁十小安志妣
ナスササシキミガホリシ井ノ
成榮之君之穿之井之云々とある小同丁○吾乎召麻

之乎シテ乎ハ字類聚抄ハ二卷日並皇子尊の薨賜後舍
人シのよめる歌中ニ東乃多藝能御門爾ハ雖伺侍昨日毛
今日毛召言毛ケフ死モとあるふこゝるむえ
同ノ歌意かくれルところなり

如是耳有家類物乎芽子花咲

而有哉跡問之君波母

如是耳ハカクノニと訓べハ最悪又カクノ
十六十一小如是耳爾有家流物乎猪名

川之奥乎深目而吾念有來とあり○問之君波母ハ二
卷天皇崩賜ひし時大后の作坐御歌小明來者問賜良
思神岳乃山之黄葉乎今日毛鴨問給麻思とある小同
く芽子花開ありやいふと問賜ひし君えいづ
らやと云るなり波母ハ慕め問意の辭ふて上ふ云里
○歌意ハ芽子花開よりやいふと問賜ひし君ハ
いづらいあなる處ふおえまはやいふさまかくれ
あなくのみなり賜へるものと今ハいふ小慕ひ奉里
てふかひあき
ことそとなり

君爾戀痛毛爲便奈美蘆鶴之。

哭耳所泣朝夕四天。

痛毛爲便奈美ハ最爲便イタモスベナミの死イト故スベ小といふなり十三
三十小此九月之過莫乎伊多母爲便無見云々十五
九小安我毛布許已呂伊多母須敝奈之アガモフコハロイタモスベナシかどありて伊
多ハ最甚意の辭モトモタカシキあり○蘆鶴アシガニ之ハ音鳴コナクといをむ爲の
枕詞なりさて蘆鶴の蘆ハ借字小て求食鶴アサリタツなり蘆鴨アシガモ
蘆蟹アシガニなどの蘆も同くと今村樂云アサリタツ里アサリタツき○哭耳所泣ハ

五卷三十十小雲隱鳴往鳥乃禰能尾志奈可由クモガクリナキユタトリノ子ノミシナカユとあり○
朝夕アサヨミ四天ハ四天ハ四天ハは輕く添シテする辭小て意なると云里
今案小此四天も旅爾爲而家爾爲而などいふ爲而シテと
同言小て其事とりけたりて他事シテなく物シテをる意の詞
なるべしさればこゝも朝夕小他事なく一トをトお小
哭小のこ泣るゝよシなるべし○歌意シかくれシなり

遠長將仕物常念有之君師不

座者心神毛奈思。

心神毛奈思ハ十七モナシ小伎彌爾故布流爾許已呂度コロド
母奈思十九モナシ小妹乎不見越國敝爾經年婆吾情度イモヲミズミシクニヘニトシフレバワガコロド
乃奈具流日毛無ノナグルヒモナシなどあり心度ハ利心といふ小同トコロド
あるべし歌意これもかくれなし二卷舍人歌小天ツチトトモヲムトオモヒツマツリシコロ
地與共將終登念下奉仕之情ツチトトモヲムトオモヒツマツリシコロ
違奴とあるふや似ありタカヒヌ

若子乃ワカキ匍匐多毛登保里朝夕コノハヒタモトホリリアサヨヒニ

哭耳曾吾泣君無二四天子ノミソアガナクキミナシニシテ

若子乃若字拾穂本ハハワカキコノと訓ふるもるハ匍匐回ヒタモトホリといむ料の枕詞なり十七サミ伊母毛勢イモセ
母和可伎兒等毛波モワカキコドモハ齊明フキアキ天皇紀大御歌テウテウキオホミウタとあり○匍匐ハヒ
多毛登保里ハ續紀詔詞小恐古士物進退匍匐廻保里タモトホリ
云々と見ゆ○君無二四天ハ四卷キミナシニシテ小友無二思手イモナシニシテ
ともあると同ト類語なり四天の意此上小云里○歌
意かくれしる

とこるなり

右五首資人金明軍不勝犬ミギノイツウタハツカヒビトコムノミヤウグムガズ

馬之慕心。中感緒作歌。

資人資字舊本ハは仕と作里今ハ類聚抄古寫本拾穂本又異本等ハ從つ。ハ朝オホササより下さ

れて仕シむる人なり。軍防令ハ委オモく見えシり。續紀ハ

養老五年三月。勅給右大臣從二位長屋王。帶刀資人十

人。中納言從三位巨勢朝臣邑治。大伴宿禰旅人。藤原朝

臣武智麻呂各四人。云々とあり。枕冊子ハつツのノひ人な

どハありて。こコらレハハべノ。きキなナげゲなるルこそ。あるマド

く見ゆれ。落窪物語ハよヨきキあアごゴこコちチのノつツのノひ人。と見

おきオりリつツるル物モノをヲいイのノあアるルぬヌをヲ人ノのノかカるルことトさサし

いでつらむ云々。あアどもドモありリ。○金字類聚抄ハ余と

作里オホササ○犬馬之慕心ハ。犬馬の己オノの主人を戀慕オホササハ比ヒて

云里オホササから籍文選史記等オホササなれり。○中字荒木田氏の

申マウ改めカゆるル。誠マコト小コさサることトなり。五卷イハ二十ニ遊アソ於ニ松浦

河序カハ小コも。遂オソ申マウ懷抱オホササ。因贈詠

歌曰ウタハ。とあるルをヲも。考オモ合アへヘ。

見禮杼不飽。伊座之君我黃葉

乃移伊去者。悲喪有香。

見禮ミレ好ド不飽ズハ。四卷小照月乃不飽君乎。ともある如く。
見れども厭足アキタラじ。愛カタクきよなり。七卷丁廿九小。雖見不ミレ
飽人國山木葉とあり。○移伊去者ハ。薨坐セるといふ。伊イ
ハ。待伊不絶伊マツイなどの伊イ小て。移タリの下小附ツる助辭カハ。
去の上小附ツてハ。讀べのらび。○悲喪有香カシクモアルカハ。
悲慟カシクも有哉レなり。○歌意これるかくれなナ。

右一首勅内禮正縣犬養宿

禰人上使檢護卿病而醫藥

無驗逝水不留因斯悲慟即

作此歌

内禮正ハ。ウチノ井ヤノカ。こと訓べし。内禮司の長官
なり。職負令ふ。内禮司正一人。掌宮内禮儀。禁察シメ非違ヒと
あり。○縣犬養宿禰人上ハ。傳未詳あらび。○逝水不
留ハ。薨坐セると云。から籍論語シ出デる文字なり。

七年乙亥。大伴坂上郎女悲

嘆^ミ屈^{アマノ}理^リ願^{グワム}死^カ去^{ミマ}作^{カレル}歌^ヲ一^{ヨメル}首^{ウタ}并^{ヒト}

短歌^{ミジカウタ}

大伴坂上郎女ハ旅人郷の妹あり上ふ出つ○屈理

願ハ新羅國より歸化^{マサキ}あるなり詳く左注小見ゆ

栲角乃新羅國從人事乎吉跡^{タクツノシラキノクニユヒトゴトヲヨシト}

所聞而問放流親族兄弟無國^{キカシテトヒサクルウガラハラガラナキクニ}

爾渡來座而大皇之敷座國爾^{ニワタリキマシテオホキミノシキマスクニ}

内日指京思美彌爾里家者左^{ウチヒサスミヤコシニサトイハサ}

波爾雖在何方爾念鷄目鴨都^{ハニアレドモイカサマニオモヒケメカモツ}

禮毛奈吉佐保乃山邊爾哭兒^{レモナキサホノヤマニナクユ}

成慕來座而布細乃宅乎毛造^{ナスシタヒキマシテシキタヘノイハラモツクリ}

荒玉乃年緒長久住乍座之物
アラタマノトシノヲナガクスマヒツトイマシトモノ
 乎。生者死云事爾不免物爾之
ヲウツレバシヌチフコトニノガロエヌモノニシ
 有者憑有之人乃盡草枕客有
アレバタノメリシヒトノコトクサマクラタビナル
 間爾佐保河乎朝川渡春日野
ホトニサホガハラアサカハワタリカスガヌ
 乎。背向爾見乍足氷木乃山邊
ヲソガヒニミツトアシヒキノヤマヘ

乎指而晚闇跡隱益去禮將言
ヲサシテクラヤミトカクリマシヌレ。イハム
 爲便將爲須敝不知爾徘徊直
ス。ムセムス。シラニ。タモトホリ。タガ
 獨而白細之衣袖不干嘆乍吾
ヒトリシテシロタヘノコロモテホサズナゲキツトアガ
 泣淚有間山雲居輕引雨爾零
ナクナミダアリマヤマクモ井タナビキアメニフリ
 寸八
キヤ

栲角乃ハ枕詞小テ栲細之白きといひのけさるなり。
角字を書るハ借字なり。又此を栲つ布といふ説ハこ
きを古事記集中共小濁音の古事記沼河日賣歌小多
字を用ゑるをみおもふべし。久豆怒能斯路岐多陀牟岐此集廿卷
能之良比氣乃字倍由とも見ゆ仲哀天皇紀小栲衾新
羅國出雲國風土記小栲衾志羅紀乃三埜此集十五
小多久夫須麻新羅とも見えたり○新羅國ハ古事記
傳三十卷小具く見ゆ○人事乎ハ他言をなり○吉跡
所聞而ハ善と聞賜ひての意なり古事記八千矛神御
歌小佐加志賣遠阿理登岐加志豆とありこハ皇朝

のことと三寶を崇信むよき風俗と他人の語るを
聞て歸化れるよくなりそもく皇朝ハかけまくもか
しこき天照大御神の大御裔とましくて高御座皇統
の天壤のむゝ動くことなく無窮小傳坐て千萬御
代まで平けく安けく天下を統御を御國なるの故小
神代より五種のもなつものをもどつて千の物も萬
の事もみなさらひて何ひとつあらぬことおき萬國
の宗國小あれば其をかこみあゝひ尊み仰ぎて
まつるひまゐるで來べき理なるふ其事をば得さくら
ざして三寶を崇信むよき風俗と聞て渡りまゐる來

れる。佛意こそあのおも口をいけれ。○問放流ハ。問は言
問ドビきること。放流サクルハ。見放ミサクの放サクふて。物言モノコトやるといふ
小同コトト。契沖キチウの言問コトをして。憂ウレを遠放トウサクの意イ解トクなせし
つ意イ小コて。憂ウレを遠トウさく。見放ミサクといふも。見ミや見ミた
意イハ。あきを合カ思シべし。五イ卷マキ丁チヨウ挽カケ歌ウタ小コ。石木イシキ乎ナリ母ハハ刀タチ比ヒ
佐氣サキ斯シ良ラ受ズ十九ジウ丁チヨウ一イチ詠カク白ハク大鷹オホトビ歌ウタ小コ。語カタリ左氣サキ見ミ左サ久ク流ル
人眼ヒトメ之ノ等ト於オ毛モ比ヒ志シ繁シ續シ紀キ卅サウ一イチ左サ大臣オホナリ藤原フジワラ永手トヨテ朝臣アサノミ
薨坐オホシマる時の詔詞ミコトコト小コ。朕ミコト大臣オホナリ誰爾タレニカモ加母カモ我語ワガカタリ比ヒ佐氣サキ牟ム孰タケ
爾加母ニカモ我問ワガトヒ比ヒ佐氣サキ牟ム止ト云々トと見ゆ。○親族オホナリ兄弟ケイテイハ。ウ
ガ。ラ。ハ。ラ。ガ。ラ。と訓べし。親族オホナリハ。神代紀カムヤマトキ小コ。不負フタガハシ於オ族ウヂ。此
云宇我ウガ邏ラ磨マ概ケ韋ヱ兄弟ケイテイハ。續紀シヨウキ詔詞ミコトコト小コ。波良ハラ何良カハラと見ゆ。

言意ハ未考得也。但宇ハ生の意。波良ハ腹の意。何良
ハ也何良等母何良などいふ何良ハ皆同言と見ゆ。○
渡來座ワタリキマシテ而ハ海路ウミミチを渡ワタりて。皇朝ミヤコ小コ歸化キキカ坐イマての謂イハレなり
○大皇之オホミヤノ。大字オホナリ舊本キウホン小太コタと作スるハ。オホキミ。ノ。と訓
べし。天皇ミヤコ小改コカめて。ス。メ。ロ。キ。ノ。○内日ウチヒ指サスハ。宮ミヤの枕詞マクシ
なり。京ミヤコといふ。宮處ミヤノふれバ。宮ミヤと屬ツケく小同ト。さて内
日ウチヒハ。現日ウツシ小コや。現ウツシと。宇知ウチチといふハ。靈尅タマキルウチノカサリ内限ウチノカサリ。現ウツシ之限ノカサリ。あ
どよ。是コトなり。さて高タカき宮殿ミヤノハ。物モノの障サマかくて。現
く日光ニヒノカミの指サスよくなるべし。冠辞カウジ考カウ説セツハ。こ
爾ニハ。京内ミヤノ繁シく盛シ小コ。滿ミツてあるよ。思美彌シメモリハ。繁シ森モリ

なり。切モロの森ハ。森小早成イナレとよめたる如く繁盛シカなるを
いふなり。十卷三。小秋芽子者枝毛思美三荷花開二アキハギハエダモシニハナサキニ
家理十二七。小萱草垣毛繁森雖殖十三ウズエタレト。小藤原フヂハラ
都志彌美爾人下滿雖有ミヤコシニヒトハシモミチアレドモなどあり。○里家者ハ里と家サトイハ
とをなり。○左波爾雖有ハ上筑波山歌小も高山者左タカヤマハサ
波爾雖有とあり。○念鷄目鴨ハ一卷近江荒都歌小何オモヒケメカモ
方所念計米可とあり。鴨ハ可ハ疑辭母ハ歎息辭なり。
さて此句の下小云々有けむと云詞を假小加へて意
得べし。さなくてハ可の疑辭の結詞なくていふが
り。此事上小委云里。○都禮毛奈吉ハ二卷小由縁母元ツレモナキ

真弓乃岡爾とある下小具云里。都禮ハ連小て相連れ
伴ふ人も無といふなり。今世物へ行むとある小相伴
ふ人と都禮といふもこれなり。○佐保乃山邊爾安麻サホノヤマヘニ
呂卿より此山邊小家居イハラ。故安麻呂卿と佐保
大納言と申しき。○哭兒成ナラコナスハ手ハと作り。ハ哭兒の如
といふ意の枕詞なり。乳兒の其母を慕ふ如く小とい
ふなり。○布細乃小枕詞なり。既く出つ。○年緒長久ハ
十九三。小荒玉之年緒長吾念有兒等爾可戀月近附アラタマノトシノヲナガクアガモルコラニヨフベキツキチカツキ
奴とも見ゆ。緒ハ連綿ツラネツく意の言小て生緒玉緒イキノヲタマノなどい
ふ緒小同。續紀卅四詔小年緒不落間牟夏無久仕奉トシノヲオチズカクルコトナクツカヘ

來流ともあり○生者ハウマルレバと訓べしヒトケル
ふ免ハ荒木田氏の五卷令反感情歌古本
小道路得奴兄弟親族遁路得奴老見幼見とある小依
てノガ口五又とよ免里○人乃盡は石川命婦とはト
免て奴婢小至るまで理願の憑免りし人の悉皆とい
ふなり○旅有間爾ハ有馬温泉小往里一ホト間小となり
間ハホトと訓べし始ハ十八小比登欲能可良爾九
歌小七日経志加良かどある小よりてカラと○佐保
訓里一のど非ありけり其由ハ後小いふべし
河乎といふよりハ葬送の道次なり○朝川渡イセカハワリ川字拾
ハ河とハ二卷小未渡朝川渡とあり朝小川を渡里行

を云○晚闇跡ハクラヤとト本居氏訓る宜し拾遺
集物名さくら花の色をあらたふめでバあぶめきぬ
いざくらやみ小成てかざむ又或歌小くらやみの
天の磐戸も開ぬべしさよまみ人のうさふ神樂小榮
花物語月宴小宮ハあえれふいみしとおやし然りあ
ぶらくれやみ小てきぐさせ賜ふ小も云々○隱益去
禮ハ隱里座ぬればの意なり○將為須敝不知爾敝字
小ハ敝拾穂本小ハ敝活字本小ハ敏と作里共小誤あ
り今改つさて須辨とあるべきを敝の清音字を書る
ハとりをハ為べきやうも知れふといふ意なり集中
小多き詞なり○白細之ハ衣の枕詞なりこハ素服

といふ奈ののよへるふてすはさきふあり事と今
のころ詞なり散爾伎過爾伎などいふ爾伎小同し○
歌意かく
れなく

右新羅國臣名曰理願也遠
感王德歸化聖朝於時寄住
大納言大將軍大伴卿家既
經數紀焉惟以天平七年乙
亥忽沈運病既趣泉思於是
大家石川命婦依餌藥事往

有間温泉而不會此喪但郎
女獨留葬送屍柩既訖仍作
此歌贈
入温泉

臣の下名、字、舊本小脱せり、類聚抄古寫本古寫一本拾
穂本又異本等小從つ○大納言大將軍ハ、養老四年三
月小征隼人持節大將軍小爲賜ひ、天平二年十月小大
納言小任れ賜へるなり、委上小云里○大伴卿家ハ、旅
人、卿の佐保の家なり○既經數紀焉經、字、舊本小ハ、延
と作里、其も例あ
れど、今ハ古本古寫小本又一本拾穂本等小從つ、又異
本小ハ、延、類聚抄小ハ、至と作り、焉、字、拾穂本小ハ、也と

作紀ハ字書小十二年爲一紀とあり○大家ハ女之尊稱と云里母を尊みて稱するべし○石川命婦ハ内命婦石川朝臣邑婆小て安麻呂卿の妻郎女の母あり四卷小大伴坂上郎女之母石川内命婦とあり命婦ハヒメト子と訓里書紀仁德天皇卷小内外命婦とあり天武天皇卷小内命婦とありハハいハハ職負令義解小婦人帶五位以上曰内命婦五位以上人妻曰外命婦とあり谷川氏云書言故事註婦人受朝廷之誥命爲命婦○喪字舊本哀小誤古寫本古寫小本拾穂本等小從つ○入字拾穂本小死ハハさのハハ削けるの

トセマリヒトセト云トシ ツチノトウ ミ ナ ツキ オホ トモノ スク
十一年己卯夏六月大伴宿

子 ヤカ モチガカナ シミミマカレル メヲ ヨメル ウタ ヒト ツ
禰家持悲傷亡妾作歌一首

亡妾 妾字古寫小本拾穂 本小ハ婦と作里 ハ未詳ならび家持卿の嫡妻

坂上家之大嬢小ハ非也按小六卷天平十二年の條小内舍人大伴宿禰家持と見えて内舍人ハ廿一以上と補ふ軍防令小見えされバ此時廿のりの齡小てめつつあへる妾女の身まのれるなるべし

從今者。秋風寒。將吹鳥。如何獨。

長夜乎將宿。

鳥ハ焉小通書。上小云里。

歌意かくれゝるどころなり

弟大伴宿禰書持即和歌一

首

書持ハ紀中小見えざれば其傳委くハ知べのらば此
集十七小家持卿哀傷長逝之弟歌ありて自注小斯人
為性好愛花草花樹而多植於寢院之庭云々又云佐保
山火葬云々右天平十八年秋九月二十五日越中守大
伴宿禰家持遙聞弟喪感
傷作之也と見えしり

長夜乎。獨哉將宿跡。君之云者。

過去人之所念久爾。

過去人スギシト拾穂本シホト去のハ家持卿の亡妻といふ○所念オモホシラ
久爾ハ念ハるゝことなるものといふ意なり○歌
意ハ中々小黙止てあらバ忘るゝひまも有べき小君
の云々のさまへバ吾もその亡婦ナキヒトの存在ヨニアリし時のこと
おもひ出られて悲しき事堪タがさきことなる

又家持見砌上瞿麥花作歌
ものごととなり畧解小黄泉の人も獨宿難ふま
マタヤカモチガミテミギリノナデシコノハナヲヨメルウタ

一首

作字古寫本小

元ハころゝ

秋去者見乍思跡妹之殖之屋
アキサラバミツシヌヘトイモガウエシヤ

前之石竹開家流香聞
ドノナデシコサキニケルカモ

見乍思跡ハ花開ミツシヌトらバ見つゝ賞愛み賜へとの意
なり次歌小思努妣都流可聞とある思怒妣シヌヒとハ意異カハ
れ里○殖字拾穂本小ハ植と作里○前之拾穂本小ハ
戸乃と作里○歌の意ハ秋小ゝなりあバ花開べき

を見つゝ賞愛み賜へ。吾も共小賞べりとして、妹の殖置
し。屋前の石竹ハ。花開ふるを。開へのいもなく。殖
人ハをや過去て。共小見むと思ひし心もあ
びひて。いと悲しき。堪ぶるき哉となり

移朔而後悲嘆秋風家持作

歌一首

虚蟬之代者無常跡知物乎秋

風寒思努妣都流可聞。

歌意ハ。生るれば。死ちふこと。免ぬ。世の理ハ。かねて
知れるもの。秋風の。層寒き。小獨宿れば。悲しき。堪
ぶる。て。理を。知れる。か。い。も。なく。

亡人の戀しく思をる。哉となり

又家持作歌一首并短歌

吾屋前爾花曾咲有其乎見杼

情毛不行。愛八師。妹之有世婆。
 水鴨成。二人雙居。手折而毛。令
 見麻思物乎。打蟬乃。借有身在
 者。露霜乃。消去之。如久。足日水
 乃。山道乎。指而入。日成。隱去可

婆曾許念爾。曾已所痛。言毛不
 得名付毛。不知跡。無世間。爾有
 者。將爲須辨毛。奈思。

花曾咲有ハ。その妹の殖一石竹のなり。○情毛不行ハ。
 情の行とハ。情念の過失て。物思あ。く和さ。ま。き。を。い
 ふ詞なり。情と遣といふも。情念をや。里失ふ意の詞。ふ
 て。心の行も。心を遣も。自然ると。設て爲るとの。差別あ

るのみふて、本ハ同じ趣なり。こゝは花を見て、情をや
れども、行ざるよりなり。○水鴨成ハ枕詞ふて、真鴨マカモの
如くといふ意なり。水鴨ハ字の如く、水小居鴨といふ
ことゝともおもへど、十四シテハハ於吉都麻可母とも
あるを思へば、猶水ハ借字ふて、真鴨といふも同じ。四
卷シテハハ水空往と書るも、水ハ御の假字なり。○二人
雙居ハ、五卷ハ爾保鳥能布多利那良毗爲此餘もあ
り。○手折而毛タフリテモと作るハ、誤なり。ハ折ぐても見せ、折て
も見せまゝ物あるをといふ意なり。○借有身在者カレルミナレバ借
舊本惜ハ誤、元曆本古寫ハ廿卷ニテハハ美都煩奈須可ミツボナスカ
一本拾穂本等ハ從つ。

禮流身曾等波之禮々杼母とあり。○露霜乃ツユシモノ露霜拾穂本
本ハ露霜ハ誤、今二卷ニテハハ露霜之消者消倍久と有ツユシモノノケチバケクベクク
ハ異本ハ從つ。○消去之如久ハ十九シテハハ挽歌ハ置露之消去之如とオクツユノケヌルガゴト
見ゆ。○入日成ハ没日の如くといふ意ふて、隱の枕カクリ
詞なり。○隱去可婆此まで四句上尼理願を悲める歌カクリシカバ
ハ足氷木乃山邊乎指而晚闇跡隱益去禮とあるハ大アシヒキノヤマヘヲサシテクラヤミトカクリシヌレ
あゝ似たり。○曾許念爾ハそれを念ふ小なり、集中ハ
甚多き詞なり。○曾已所痛ハ十三シテハハ挽歌ハ戀鴨コレカモ胃イヒモカ
之病有念鴨意之痛とよめ。○言毛不得ハイヒモカイヒモカ子カモモイヒモカ
子と訓べし。上不盡山歌ハ言不得名不知靈母座神香イヒモカ子カモモイヒモカ

聞とあり○跡無ハ。跡形も無意なり。上沙彌滿誓歌小。
榜去師船之跡無如。とあるの如し。八卷四十小秋野乎
且往鹿乃跡毛奈久念之君爾十一
五小吾戀跡無戀不止怪とあり
丁カシウタ

反歌

時者霜ハ。霜ハ其所乎之毛湯者之毛何時者之毛など
去吾妹可若子乎置而。
ユクワギモカワカキコラキテ

時者霜ハ。霜ハ其所乎之毛湯者之毛何時者之毛など
云る之毛と一言小て。數ある物の中を取出ていふ辭
とあるえと置されバ此ハ時こそい多けれ死べき時
もあらむとどの意なり○何時毛將有乎ハ十七廿一
哀傷歌小奈爾之加毛時之波安良牟乎十九廿八挽歌
小何如可毛時之波將有乎とある類なり○情哀ハ
十一十二小心哀何深目念始十四三十小許己呂伊多
美安我毛布伊毛我伊敞乃安多里可聞廿卷五十小許
己呂伊多久牟可之能比等之於毛保由流加母などあ
り○伊去吾妹可ハイユクワギモカと訓べし伊ハそ

一言ふて、去ユクハ死去を云、可カハ哉なり。○若子乎置而若古寫本ハ君とハ、ワカキコヲキテと訓べし。若子ワカキコと云作スルハ誤なり。ハ、ワカキコヲキテと訓べし。若子ワカキコと云ことハ、上ウハ云り置キとキといふハ、除ノ汝而ナと、那乎伎ナ互テと云る例なり。○歌意ハ、時こそハ多タけれ死シべき時もあらむと、情痛シく若ニき嬰兒スと

留置ルて、死去ス吾妹ニ哉トなり

出行イデ道ユカス知ミチ末シラ世マ波セ豫バ妹アラカメ乎イモ將ヲ留トイ。

塞毛セキモ置末オカマ思乎シヲ。

出行イデハ、イデユカスと訓べし。イデハ、手筒テウツなり。ユカスハ、ユクユクの伸ノ里リさるルふて、出行イデ賜ミツふといふルとの意イあり。妾メカ女メの事コトを行ユ賜ミツふと云ハむハ、崇タカむる小過コトて、いハらハひなりと思フふハ、古コ人ノの詞コトづクのヒをホらシぬ人ノのなハらハひなり次ツハ、離リ家カ伊イ麻マ須ス。○道ミチ知チ末マ世セ波ハ道ミチ路ロをチ知チてあらバ、と云フの如ク。○豫ヨハ、アラカジメと訓べし。カテヨリとよめ。四シ卷マキ二十ニ小コ豫ヨ荒アラ振ア公キミ乎ヲ又マタ四シ十ジュウ豫ヨ人ヒト事コト繁シブ六ロク卷マキ十九ジュウニ小コ豫ヨ兼ケン而ニ知チ者ノ又マタ四シ十ジュウ豫ヨ公キミ來キ座ザ武ブ跡トなどあり。豫ヨ字ジハ、カカ子シテと訓ベき處ト小コ用ヨウハ、二ニ卷マキ廿ニあり。三サン丁テイハ、豫ヨ知チ勢セ波ハ十ジュウ卷マキ六ロク十三ジュウサン丁テイハ、豫ヨ寒カン毛モあどあり。されど此コハ、加カ子シテヨリ。○塞毛セキモ置末オカマ思乎シヲ七シチ卷マキ四シ小コと訓ベてハ、ヨヨルルヤヤフフトトメメニニシシヤヤハハニニセセキキモモアラアラカカモモ夜ヨ干カン玉タマ之ノ夜ヨ渡ワタ月ツキ乎ヲ將マカ留ル爾ニ西セ山サン邊ヘ爾ニ塞毛セキモ有アル糖毛ドウモとあり。

り。十八十七。夜岐多知乎。乃奈美能勢伎爾安須欲里。
波毛利敝夜里蘇倍伎美乎等登米牟。とも見えたり。塞
字。セキとよめるハ。二卷小。塞為卷爾と見ゆ。塞字。つ
コと訓も。塞處の。○歌意ハ。妹の出行賜ふ道路を知て
約り轉れるなり。○歌意ハ。妹の出行賜ふ道路を知て
あらば。その道路を塞むの爲小。豫て關を置まし物を。
いづち行らむ。その行方も知れねば。せむ方なしとな
り。現身の如くいひなきあり。猶
その死れる事と信ぬさまなり。

妹イモ之見師屋前爾花咲時者經

去ヌ吾泣淚未干爾。

師字類聚抄ハ之と作り○花咲ハハナサクと訓べ
し。花の咲時とつゞく意なり。荒木田氏のハナサキと
里。○歌意ハ。吾悲嘆の涙ハ。なる新喪の時小同く未
乾もせぬことなる小。早妹の見し其屋前小。花の咲時
節の移里來ぬるよとなり。五卷五挽歌小。伊毛何美斯
阿布知乃波那波知利奴倍斯和何那久那美多伊摩陀
飛那久爾とある
ハ。今と似こり

カナシキ ヤマバテ マタヨメル ウタ イツト
悲緒未息更作歌五首

カクノニ アリケルモノヲ イモモアレモ
如是耳有家留物乎妹毛吾毛。

チトセノゴトク タノミタリケリ
如千歳憑有來。

歌意ハ。かくむのりたるなき。妹の命小てありける物
を然るべしとも知れて。千歳も共小あらむの如く思
ひ憑めり事。の悲しきとなり。上小。如是耳有家類物
乎。茅子花咲而有哉。跡問之君波母とある小。本二句ハ

全同

イヘザカリ イマ スワギモヲ トビカカ子 ヤマ
離家伊麻須吾妹乎停不得山

ガクリ ツレコノロドモ ナシ
隱都禮情神毛奈思。

イヘザカリ
離家ハ。五卷挽歌小。伊弊社可利伊摩須と有。○伊麻須
ハ。行座といふの如し。○停不得ハ。五卷十小。等登尾可
禰都母十九廿八 挽歌小。逝水之留不得常かど見ゆ。○
山隱都禮ハ。山隱つればの意なり。佐保山小葬埋とす。

と云里○情神毛奈思ハ上小云里

○歌意かくれあるところなり

世間之常如此耳跡可都知跡。

痛情者不忍都毛。

世間之の之ハその一トをがなることをいふ助辭なり。シと訓べし。ハと○可都知跡ハ知ども且の意なり。四卷ニ小安蘇々ニ破且者雖知之加須我仁默然得不在者トある小同ト○不忍都毛ハ不忍ハ契冲不得忍

とありしハ字の脱したるなるべしと云里毛ハ歎息辭なり○歌意ハ世間ハ如此をのり小をのなきものそとハ常ふ知されどもかつ悲歎み痛む情ハ得堪忍いざしてさてもかなしやとなり

佐保山爾多奈引霞每見妹乎

思出不泣日者無。

霞ハ秋ふもよ免ることニ卷初小云里火葬の煙を思ひて悲しむるるべし○歌意かくれしるところなり

昔許曾外爾毛見之加吾妹子

之奧擲常念者波之吉佐寶山

波之吉ハ愛なり既く出つ歌意かくれなし七卷三

寄山相聞ふ佐保山乎於凡爾見之鹿跡今見者山夏

香思母風吹莫勤と

ある小趣似り

十六年甲申春二月安積皇

子薨之時内舍人大伴宿禰

家持作歌六首

安積皇子ハ續紀小天平十六年閏正月乙丑朔乙亥天

皇行幸難波宮是日安積親王縁脚病從櫻井頓宮還丁

丑薨時年十七親王天皇武之皇子也母夫人正三位縣

犬養宿禰廣刀自從五位下唐之女也と見えり内

舍人ハ職負令小内舍人九十人掌帶刀宿衛供奉雜使

若駕行分衛前後と見ゆ六卷天平十二年の標の下小

内舍人大伴宿禰家持とありて。

此時未内舍人なりしと見ゆ

掛卷母綾爾恐之言卷毛齋忌
志伎可物吾王御子乃命萬代
爾食賜麻思大日本久邇乃京
者打靡春去奴禮婆山邊爾波

花咲乎鳥里河湍爾波年魚小
狹走彌日異榮時爾逆言之狂
言登可聞白細爾舍人裝束而
和豆香山御興立之而久堅乃
天所知奴禮展轉泥土打錐泣

將セム爲ス須ベ便モ毛ナ奈シ思。

掛カケ卷マク母モハ言イ小コいひ出デむことモといふ意イなり○齋イハ忌ヒ
志シ伎キ可カ物モハ二卷高市皇子尊殞宮之時歌小挂文忌之
伎キ鴨カモ言イ久ク母モ綾アヤ爾ニ畏カシ伎キとあり○御ミ子コ乃ノ命ミコトハ安積皇子
と申ウ也○食賜麻思ハ食ハ所聞食の食なり既く具云
至二卷高市皇子尊舍人等作歌小高光我日皇子萬代
爾國所知麻之島宮婆母と見えりさて此小のくあ
る小て思へバ此皇子儲のねふておをいつらむ○大
日本ハ此ハ御國の総名とせり久邇京ハ大和國なら

ねバ例の大和一國を云事としてハとあり猶次小
云○久邇クニ乃ノ京キョウハ山城國相樂郡恭仁郷小あり續紀云
天平十三年十一月戊辰右大臣橘宿禰諸兄奏此間朝
廷以何名號傳於萬代天皇勅曰號爲大養德恭仁大宮
也といへり六卷小讀久邇クニ新京キョウ歌ありなる彼處小具
云べし○花咲ハナ乎サキ鳥里トリ鳥字舊本爲小ハ花の志げく咲
とる容と云二卷小具云里○年魚小狹走ハ小ハ借コ子コ
なり狹ハそへ言小て真と云むの如し十九十二潛鷗
歌小河瀬爾年魚兒狹走とあり○彌日異ハ彌日小異
小ハおどよめる小同ぐ異ハ借ケ來經キなり既く云里

吾王ワガ オホキミ天所知牟登アメシラサム ト不思者オモハ子バ於保オホ

爾曾見ニソツミ谿流ケル和豆香蘇麻山ワヅカソツマヤマ

天所知牟登ハ、薨座むといふ意なり○不思者ハ、豫

しも思ひよらざればの意なり○於保爾曾見谿流ハ、

上ハ外爾毛見之加ヨソニモミシカといへる小同ノ意味小て於保ハ

凡疎かどの字と書る其意小ておるよその意なりお

ほよそといふも於保ハ凡余所ハ外オホヨソあると一ツ小連言

ある詞なり二卷ハ天數凡津子之相日於保爾見敷者

今叙悔七卷イマツクセシキ廿三セ小人社者意保爾毛言目我幾許師奴

布川原乎標結勿謹又フカハラヲレメユラナユメ三十サ佐保山乎於凡爾見之鹿跡

今見者山夏香思母風吹莫勤イマミレバヤマナツカカシモカゼフクナユメなどあり○蘇麻山ハソマヤマ松

山なり和名抄小功程式云甲賀松田上松松讀曾萬所

出未詳但功程式者修理算師山田福吉等弘仁十四年

所撰上也とあり○歌意ハ吾皇御子命と葬奉らむ

とかねてしも思ひよらざれば和豆香松山をおるよ

そふのみ見過してありし今ハ愛しき山小てある

そとなり二卷大津皇子を葛城二上山小移葬時大

來皇女のよみませる御歌小宇都曾見乃人爾有吾哉

從明日二上山乎吾世登

吾將見とある小似より

足檜木乃山左倍光咲花乃散

去如寸吾王香聞

山左倍光ハ山も耀光くまで小花の咲と云六卷
小巖者山下耀錦成花咲乎呼理十卷
底并爾光及二三笠之山者咲來鴨などよめり○歌意

咲花の如く榮え坐しを思ひもかけどその花の散ぬ
る如くさてもたのなく薨坐し吾皇ふてある哉とな

右三首。二月

三日作歌

掛卷毛文爾恐之吾王皇子之

命物乃負能八十伴男乎召集

聚ヘ率アドモ比ヒ賜タマ比ヒ朝アサ獵ガリ爾ニ鹿シ猪ク踐フミ起オコシ。
暮ユフ獵ガリ爾ニ鶉トリ雉フミ履タテ立オホ大ミ御マ馬ノ之クチ口。
抑オサヘ駐トメ御ミ心ココロ乎ラ見メ爲シ明アキラ米ラ之メ活シ道イク。
山ヤマ木コ立ダチ之ノ繁シバ爾ニ咲サク花ハナ毛モ移ウツロ爾ニ家ケ。
里リ世ヨノ間ナカ者ハ如カ此ク耳ノ奈ナ良ラ之シ大マ夫スラ。
夫ラ。

之ノ心ココロ振フリ起オコシ劔ツルギ刀タチ腰コシ爾ニ取トリ佩ハキ梓アツサ弓ユミ。
鞞ユキ取トリ負オヒ而テ天アメ地ツチ與ト彌イヤ遠トホ長ナガ爾ニ萬ヨロツ。
代ヨ爾ニ如カク此シ毛モ欲ガ得モ跡ト憑タノ有メ之リ皇シ。
子コ乃ノ御ミ門カド乃ノ五サ月バ蠅ヘ成ナス驟サク騷ク舍ト子。
人リ者ハ白シロ栲タ爾ヘ服ニ取コロモ著トリ而キ常テ有ツ子之ナリ。
之シ。

咲エマ比ヒ振フル麻マ比ヒ彌イマ日ヒ異ケニカハラ更フ經ミレ見バ者。

悲カシキ呂ロ可カ聞モ。

皇子之命ハ安積皇子を申す。○召集シツド聚ヘ。聚シツド字拾總本ハ。召集シツド波ハ世セ切キ。古事記小訓集云都度比ツドヒト廿卷ニ召令シ召集シツド聚ヘなり。波ハ世セ切キ。古事記小訓集云都度比ツドヒト廿卷ニ丁ニ小夜蘇久爾波那爾波爾都度比コヤソククニハナニツドヒトあどあり。○率比ソドヒ賜タマ比ヒ下ヒの比ヒ字拾總本ヒハ。二卷小御軍士乎安騰毛比ニイクサヲアトモヒ賜タマとある。小同コト下ヒ彼處小具注カノトコロニ王ノミ。○朝獵暮獵ハ既スデく一ヒト卷ヒト出デつ。○鹿猪シカ踐フミ起タテ鶉トリ雉トリ履フミ立タテハ斯々シシハ獸等利トリハ鳥トリなるをこ。

こハ田獵カカリ小主コヌシと獲ウケる物もて鹿猪鶉雉と書て。あノ訓シせシるなり。六卷十四小朝獵爾十六履起之夕狩爾アサガリニシノフミオコシヲガリニト里リ躑フミ立タテ馬ウマ並ナメ而テ御ミ猶カ曾ソ立タ爲スとあり。起タテ立タテハ伏レさる鳥獸トリノモノと驚オドロあリ起タテ立タテむるを云。○大御馬オホミウマハオホミマと訓シ馬ウマと麻マといふハ五卷十一小多都乃麻オホタツノマ龍馬リウマ和名抄ワナヒナ小牡馬コウシウマと乎ナ萬マン牝馬メウマと米萬駒メマンコと古萬コマンとある類なり。又五卷廿五小美麻コミマとも見ゆ。御馬ミウマ。○口抑駐クチオサヘトジハクチオサへトメと訓べし。六卷三十小馬之歩コウマノアサヘトジ押上駐オサヘトジ余ヨとあり。上ウヘハノ借カ字ジなり。○見為明米之ハ見為ハメシと訓シ舊本キウホン止ト誤アれり。見賜ミタマハ明アカらめ賜タマひしといふなり。十九ハ誤アり。見賜ミタマハ明アカらめ賜タマひしといふなり。十九

小見賜明米多麻比又見之明良牟流廿卷小賣之多麻
比安伎良米多麻比まゝ賣之安伎良米晚など見え
りある一卷下藤原御井歌下小具注るを合考べし
活道山ハ相樂郡小あり六卷小天平十六年春正月十
一日登活道岡集一株松下飲歌二首あり○木立之繁
爾咲花毛ハ木立繁く咲花もといふなま繁爾ハ俗小
あけりふといをむる如し木立の繁み小咲○移爾家
里ハ世のものをなく變ひ易き小かけて云里○大夫之
心振起ハ廿卷三十小大夫情布里於許之と見ゆ○劔
刀腰爾取佩ハ五卷九小麻周羅遠乃遠刀古佐備周等

都流岐多智許志爾刀利波枳十九十四慕振勇士之名
歌小梓弓須惠布理於許之劔刀許思爾等利波伎など
見えり○鞆取負而ハ廿卷小麻須良男能由伎等里
於比豆とあり鞆ハ箭室なり和名抄小釋名云歩人所
帶曰鞆以箭又其中和名由岐とあり古事記小千人之
鞆天石鞆書紀小歩鞆金鞆大神宮式小姫鞆蒲鞆革鞆
あど云も見ゆ○天地與彌遠長爾ハ天と遠く地と長
く仕へ奉らむとの意あり二卷五卷等小も見えり
○萬代爾云々ハ十三廿八挽歌小萬歳如是霜欲得常
大船之憑有時爾とあり○皇子乃御門ハ安積皇子の

宮門をさして申せるなり○五月蠅成ハサバヘナス騷サウクといを
む料の枕詞なり五卷三十三小五月蠅サバヘナス奈周佐和久兒等
遠云々古事記小萬神之聲者狹蠅那須皆滿云々本居
氏云五月蠅ハ五月ころの蠅なり然ると佐都岐とい
てで佐とのみ云ハ田植る農業を凡て佐と云その苗
を佐苗植る女を佐少女植始むるを佐開植終るを佐
登ふど云の如し又其業をる月を佐月其頃の雨を佐
亂と云かかれ狭蠅も田植るころの蠅と云意の稱
なり○騷舍人者ハ十三廿九小朝者召而使夕者石
而使遣之舍人之子等者と云る如く朝夕小召て使ハ

せハ騷きさひひて仕奉る舍人等者といふなり○白
袴爾云々ハ喪服をいふ十三廿八挽歌小大殿矣振放
見者白細布飾奉而内日刺宮舍人方雪穂麻衣服者云
云とあり○常有之ハ五卷小都禰奈利之惠麻比麻
欲毘伎散久伴奈能宇都呂比爾家里とあり○咲比振
麻比ハ咲顔舉動なり○更經見者ハそのさまの變易
ことを見れむと云な里切ルの○悲呂可聞呂字舊本
ハ元曆本ハ從つ今ハ悲きこと哉なり呂可聞と云る
例一卷藤原御井歌の條下小具云
里○歌意かくれさるところなり

道已伎太久母荒爾計類鴨久爾有名國と

見えあり○歌意かくれとるところなり

大伴之名負鞞帶而萬代爾憑

之心何所可將寄

大伴之名負鞞帶而鞞字類聚抄ハ鞞と作テナニオフ
ととハ鞞負と名小負持るその鞞を帶而といふ
るべし志のいふ所以ハ七卷四ノ小鞞懸流伴雄廣伎大
伴爾云々とあるハ大被詞小天皇朝廷爾仕奉流云々

鞞負伴男劍佩伴男伴男能八十伴男乎始氏云々とあ
りてその數々の鞞負伴男を部スベて大伴氏の護れる大

伴爾と云るなり大伴ハ即衛門府の陣をさして云り
と聞えさりさてその鞞負て仕奉る健男の伴の長な

るのら大伴之名負鞞とハ云るなり姓氏録大伴宿禰
條オホトモノナニオフノ然後以大來目部爲鞞負部天鞞負之號起於此也

と見ゆ神代紀天降條一書ハ大伴連遠祖天忍日命帥
來目部遠祖天穗津大來目背負天磐鞞云々景行天皇

紀小日本武尊居甲斐國酒折宮以鞞負賜大伴連遠祖
武日云々孝德天皇紀小大伴長德連帶金鞞立於壇右

云々など見えあり○何所可將寄ハ今よりハ何處ハ
心を縁て憑まむものそとなり○歌意ハ大伴の名ハ
負敷負て天地の遠長く萬代ハいそしみ仕奉らむと
おもひ憑み奉里ハ皇子命の薨坐れば今よりハいつ
くふの心とよせむ今ハ憑
むべき方もなるとなり

右三首。三月二
十四日作歌。

悲傷死妻高橋朝臣作歌一

首并短歌

高橋朝臣ハ未詳ならぬ。六卷天平十八年條ハ高橋安
麻呂卿見え十七天平十八年條ハ高橋朝臣國足見え
ありこれらの人と云ふも有べし。

猶左注の下ふいふをも考合べし

白細之袖指可倍氏靡寢吾黒
髮乃真白髮爾成極新世爾共

將有跡。玉緒乃不絕射妹跡。結アラムトタマノヲノタエシイイモトムスビ
而石事者不果。思有之心者不テシコトハハタサズオモヘリシコノハトゲ
遂白妙之手本矣。別丹杵火爾ズシロクハノタモトラワカレニキビニ
之家從裳出而。綠兒乃哭乎毛シイヘユモイデテミドリコノナクヲモ
置而朝霧。鬢髻爲乍。山代乃相オキテアサギリノオホニナリツヤマシロノサガ

樂山乃山際。往過奴禮婆。將云ラカヤマノヤマノマユニキスギヌレバイハム
爲便將爲便。不知吾妹子跡。左スベセムスベシラニワギモコトサ
宿之妻屋爾。朝庭出立。偲夕爾子シツマヤニアサニハニイデタチシヌヒユフヘニ
波入居。嘆合腋挾兒。乃泣每雄ハイリ井ナゲカヒワキバサコノナクゴトニヲトコ
自毛能負見抱見。朝鳥之啼耳ジモノオヒミウダキミアサトリノ子ノミ

ナキツ。コフレドモ。シルシヲ。ナミ。ト。コト。ト。ハ。ヌ。モ。
哭管。雖戀。効矣。無跡。辭不問。物。

ニ。ハ。アレ。ド。ワギ。モ。コ。ガ。イリ。ニ。シ。ヤマ
爾波在跡。吾妹子之入爾之山。

ヲ。ヨス。カ。ト。ゾ。オモフ。
乎。因鹿跡叙念。

袖指可倍氏ハ。袖指交してなり。八卷。五。十。小。白。細。乃。袖
指代而佐寢之夜也。とあり。又。三。十。真。玉。手。乃。玉。手指。更
と。も。よ。ぬ。り。○。靡。寢。等。ぬ。ハ。寐。と。作。置。ハ。二。卷。十。九。小。
玉藻成靡寐之兒乎と見え。○。吾。黒。髪。乃。云。々。ハ。七。

卷一。十。小。福。何。有。人。香。黒。髪。之。白。成。左。右。妹。之。音。乎。聞。四。

卷二。八。小。野。干。玉。之。黒。髪。變。白。髮。手。裳。シ。ロ。ク。カ。ハ。リ。テ。

九。と。よ。ぬ。り。ハ。大。白。非。なり。九。卷。十。あ。ど。も。見。ゆ。○。成
極。ハ。カ。ハ。ラ。ム。キ。ハ。と。訓。べ。成。ハ。變。成。の。意。も。て。書

る。なる。べ。○。新。世。ハ。既。く。一。卷。小。出。つ。○。玉。緒。乃。ハ。絶
の。枕。詞。な。り。○。不。絶。射。妹。跡。ハ。不。絶。妹。よ。と。い。ふ。意。な

り。射。ハ。助。辭。な。り。此。上。小。も。見。ゆ。○。結。而。石。ハ。契。約。を。結
堅。め。て。い。ふ。な。り。十。一。小。黒。髪。白。髮。左。右。跡。結

大。王。心。一。乎。今。解。目。八。方。十。六。小。死。藻。生。藻。同。心。跡。結
而。爲。友。八。違。我。藻。將。依。九。卷。十。八。小。加。吉。結。常。代。爾。至。な

ど見ゆ○事者不果ハ言をバ果さざといふなり○丹
杵火爾之杵字活字本ハ一巻小柔備爾之家乎擇と
あり彼處小注里○家從裳出而ハ家をも出ての意な
り從ハ乎小通ふ既く云里○朝霧ハアサギリ髣髴の枕詞なり
四卷一丁小朝霧之鬱相見之とあり○髣髴爲乍ハ
おるる小成つゝなり髣髴ハ不分二卷四十小髣髴見
之車悔敷乎と見えり相樂山小もふり行ふ漸遠く
おるる小なりゆくさまなり○相樂山ハ和名抄小山
城國相樂郡相樂佐加良加古事記成務天皇條小圓野
比賣到山代國之相良時取懸樹枝而欲死故號其地謂

懸木今云相樂と見ゆ○山際の下從字と脱せるの從
ハ乎小通ふ從あり○將爲便不知ハセムスベシラニ
小て便の一字スべとよめる例既く具云里○妻屋ハ
妻籠の料小造れる屋なり二卷小吾妹子與二人吾宿
之枕付孀屋之内爾とあり集中小甚多くよめ里○朝
庭ハアサニハニと訓べし妻屋の朝庭小あり庭ハ語
辭小あらび次の夕爾波の爾波と異れり十七廿一小
茅子花爾保弊流屋戸乎安佐爾波爾伊泥多知奈良之
暮庭爾敷美多比良氣受と見えり小同ト○夕爾波
ハ爾波ハ他小對へていふ語辭なり○入居嘆合イリ井ナカヒ
合字合字 舊本

舍改ハ。妻屋の内小入居て、嘆くナゲなりあり。嘆合ナゲハ嘆
 の伸ノ望ノる詞なり。伸云ハその絶ノを歎クくナリなり。十
 三十五ハトコノ子。石床笑根延門呼。朝庭丹出居而嘆夕庭入居
 而思テシモとある小同ド。これ根延門を出て、朝庭小立居
 ふよハなり。故上レハ朝庭丹と書下ハ夕庭と書て
 別ちハり。今も是と同クく妻屋の朝庭小出立夕庭ハ
 妻屋の内小入居て嘆くハよあり。あハるを此の庭を
 語辞トしてアハタニハと訓テハ朝庭ハ妻屋小出立
 といふこと小あり。朝庭取撫賜夕庭伊縁立之とある
 庭ハ皆借字。爾波の語辞ハて今ハ○挾字。舊本挾小誤。今
 と異ハり。思ハまどふべハらハ○雄自毛能ハ男の爲
 改つ○每字。舊本母小誤。今改つ○雄自毛能ハ男の爲
 まハり。行事ト。男ハてハるといふ詞と聞クえハり。言義

ハ未思得ハ。既ハ古義ハ。卷下ハ云ハ。考合ハ。荒水
 田氏ハ。自物ハ。如物ハ。といふ意ト云ハ。るハい
 加十一ハ。一。小。面形之忘而在者。小豆鳴。男士物屋戀。乍
 將居ハとある小同ド。負見抱見ハ負も抱も爲の意
 なり。この見の辭ハ十一ハ。廿五。小。咲見愠見。又ハ。廿六。引見
 馳見ハ。新撰萬葉小。浮杵見沈箕手。六帖小。逢夏ハあハり
 の池の水あれや。絶み絶ぐみ。年の經ぬらむ。伊勢集長
 歌ハ。うハいハつ。消み消ぐみ。千載集小。滿潮の末葉と
 洗ハ。流芦の君とそ。念浮み沈み。榮花物語小。陸奥のそ
 ぐハえの橋や。是ならむ。ふみ。ふまハびみ。心まどハをハ云
 云ハ。まハるハづハふハあハきハみハとハらハいハみハあハぐハさハめハ聞ハえハさせ

給へど云々。かげろふの日記。あきみこらひみ。萬の
事といひあゝあて云々。夜深るまで。あきみこらひみ
して。皆寝ぬ云々。今日もあぐれふりみふらぢみ云
々。さころものつまむむをぬ玉のをれ。さえみあえ
ぢみ世をやつくさむ。住吉物語。泣み咲ひみ明し暮
に。あどある。皆同じ。猶具く總論。云々。抱ハ。ウ。ダ。キ。と
訓べし。靈異記。抱。于。田。伎。と。見。え。り。と。あ。る。ハ。東。語
ふ。ハ。た。や。く。訛。そ。も。く。ウ。ダ。キ。と。い。ふ。言。意。ハ。腕。纏。なり。
れ。る。ま。る。べ。し。と。あ。れ。り。あ。る。を。此。言。中。昔。の。物。語
デ。マ。を。切。れ。バ。ダ。と。あ。れ。り。と。云。中。昔。の。物。語
書。お。ど。ふ。ハ。伊。太。久。と。の。み。云。る。み。よ。り。て。宇。太。久。と。い
ふ。ハ。却。て。俗。言。あり。と。思。ふ。ハ。中。々。み。古。言。を。知。ぬ。故。な
り。西。行。の。撰。集。抄。み。身。を。あ。る。と。や。あ。る。み。な。り。て。鞠。と。宇。太。

伎待るべしと記せるハ。古言を存せる。○朝鳥之ハ。音
な。里。今。も。土。左。人。ハ。宇。太。久。と。の。み。云。り。○朝。鳥。之。ハ。音
啼。の。枕。詞。あり。○効。矣。无。跡。ハ。跡。は。助。辭。あり。効。驗。の。無
さ。の。意。なり。○辭。不。問。ハ。物。言。ぬ。と。い。ふ。意。あり。物。言
を。言。問。と。云。る。こ。と。集。中。み。甚。多。く。見。ゆ。六。卷。二。十。小。不
言。問。木。尚。妹。與。兄。有。云。乎。直。獨。子。爾。有。之。苦。者。四。卷。二。十
小。暮。去。者。物。念。益。見。之。人。乃。言。問。為。形。百。景。為。而。又。五。十
事。不。問。木。尚。味。狹。藍。十。二。十。小。味。澤。相。目。者。非。不。飽。獲。不
問。事。毛。苦。勞。有。來。十。三。廿。八。小。言。不。問。木。雖。在。十。九。十。三
小。言。等。波。奴。木。尚。春。開。秋。都。氣。波。毛。美。知。遲。良。久。波。常。乎
奈。美。許。曾。古。事。記。垂。仁。天。皇。御。子。木。牟。智。和。氣。御。子。の。こ

ととハ^{ヤツカヒダ}舉鬚^{ヒゲ}至于^{シテ}心前^{ココロサキニ}眞事^{マコト}登波^{トハ}受祝^{ウケイハヒ}詞小^{コトヒシ}語問^{コトヒシ}志磐^{シイハヒ}根^ネ
キ子ナチ樹立^{キリタテ}など見え^{ミエ}こり^{コリ}○入爾^{イリニシヤマ}之山^{ノヤマ}ハ葬送^{ハハレ}る相樂^{アイソク}山^{ノヤマ}とい
 ふ○因鹿^{ヨスカ}ハ所縁^{ヨセハカ}波可^{ハカ}なるべし波可^{ハカ}といハ何處^{イツク}と波可^{ハカ}
 とあど云波^{ハカ}可^カふて慥^{ハカ}ふ其處^{ココロ}と指^{サシ}ていふ言^{コト}なりさて
 ヨセハカと約^{ヤク}れば切^セハハハヨサカとあるとサとスハ
 轉^{マユ}してヨスカといふなり故慥^{ハカ}ふ其處^{ココロ}と所縁^{ヨセハカ}と心
 と寄定^{ヨシヨサカ}る意^{ココロ}なり十六^{ジウジウ}五^{イハ}志賀^{シカ}乃山^{ノヤマ}痛^{イタクナ}勿^ナ伐^{キリ}荒雄^{アラヲ}良^ラ
 我^ガ余^ヨ須^ス可^カ乃山^{ノヤマ}跡^{アト}見^ミ管^{ツツ}將^シ偲^シ飲^シ明^ミ天^{テン}皇^{スミ}紀^キ小^コ修^{シユ}出^デ世^セ業^ノ爲^ニ
ヨカト回^{マカト}常^ト小^コ與^ヨ須^ス我^ガと濁^ナるハ
誤なり可^カハ清音^{シヨウオン}あり○歌^カ
 意^{ココロ}かくれ^{カクレ}こるところなり

反歌 カヘシウタ

打^{ウツ}背^セ見^ミ乃^ノ世^ヨ之^ノ事^{コト}爾^{ナレ}在^レ者^バ外^{ヨソ}爾^ニ
 見^ミ之^シ山^{ヤマ}矣^ヤ耶^イ今^{イマ}者^ハ回^{ヨス}香^カ跡^ト思^{オモ}波^ハ
 牟^ム

背字類聚抄拾穗本^{セジリウキウシウツ}ふハ脊^セと作^{サシ}里^リ○世^ヨ之^ノ事^{コト}爾^{ナレ}在^レ者^バ
 世間^{セカイ}の道理^{ドオリ}ふれバといふあり○外^{ヨソ}爾^ニ見^ミ之^シハ上^{ウヘ}小^コ昔^{カゼ}

許曾外爾毛見之加とあるふ同ド○山矣耶今者今字
本今字爾と作ハ耶の疑辭ハ思波牟オモハムの下今字ふめぐらして
意得べし今者今字とハ其時ふさ一切セマ至れるをいふ
詞なり今者許藝豆菜今者京利時者今者ふど多く云
る今者今字ふ同ド○曰香跡思波牟オモハム香字拾總本今字ハ鹿と
とあり今ハ古寫小本拾ヨセハカ所縁波可カと思ひ定めむのと
總本又異本等今字從つなり○歌意ハ無常世間の道理ふれば外目今字ふ見過て
有志相樂山と今ハ心と縁る處と思ひ定めて有らむ
この
なり

朝鳥之啼耳鳴六吾妹子爾今
亦更逢曰矣無

啼耳鳴六ハ子ノミシナカムと訓べし○歌意ハ今又
ふさび妻ふ相見む爲方今字のなき故ふ今字もぢ小哭ふ
をのり泣て戀しく思ひ
つゝあらむそとなり

右三首七月廿日
高橋朝臣作歌也

七月廿日ハ上小十六年甲申とあるハ天平十六年
至今ハそれふゆづりて月日とのみ注せり舊本小作
歌也といふ小引續きて名字未審但云奉膳之男子焉
と注せり仙覺おどりの書加へたるべし奉膳ハ内
膳司の長官なり續紀小廢帝寶字三年十一月丁卯從
五位下高橋朝臣子老爲内膳奉膳六年四月庚戌朔從
五位下高橋朝臣老麻呂爲内膳奉膳おど見えりこ
れらふや但し子老等の男とせむ小ハいさゝの時代
たくれり

猶考べし

萬葉集卷第三

明治十七年十一月六日

16
125
96

